

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270500810		
法人名	株式会社 桔梗グループ		
事業所名	グループホーム ききょう苑		
所在地	千葉県千葉市緑区あすみが丘8-6-1		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	令和元年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成31年3月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「地域に根ざした真心とおもてなしの介護」を理念とし、利用者様の皆様やご家族様、ご来苑される皆様に気軽に お越し頂き気持ち良く過ごして頂ける様、心のこもったお手伝いや接客を心掛けています。利用者様の皆様はお元気に楽しく毎日を送れる様、ご家族様には安心してお任せ頂ける様な苑を目指し、職員一同頑張っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

JR土気駅から徒歩で15分ほど、郊外の閑静な住宅街の一角に、グループホーム専用にて建てられた2ユニットのホームです。近くには緑豊かな公園やスーパー、コミュニティセンター等があり、訪問・買物・散歩に便利な環境にあります。日当たりの良い敷地には菜園があり、季節の野菜(ナス、大根、ブロッコリーなど)や花を栽培し、収穫と食べる楽しみがあります。  
「地域に根ざした真心とおもてなし」の理念を掲げ、全職員は家庭的で和気藹々とした雰囲気の中で利用者本位の介護を共有し実践しています。また、職員のチームワークの良さが、利用者にとって居心地が良く笑顔のある環境を作っています。今年は、看取りは1件もありませんでしたが、主治医・訪問看護師・家族の理解のもと看取りの体制を整えており、終の棲家として家族から信頼されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした真心とおもてなしの介護」を理念に揚げ、各ユニット毎に常に職員の目の届く所に掲示し、申し送りやミーティング時に唱和する様に心掛けています。	地域密着の主旨を織り込んだ理念を、玄関や各ユニットに掲示し、引き継ぎ時やフロア会議などで確認・共有・唱和し日頃のケアの中で実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア(歌・楽器演奏等)の受け入れや地域の民生員の運営推進会議への参加等、地域交流に努めています。	散歩時に公園での声かけや、地域の交流センターの催し(音楽会等)などに積極的に参加するほか、フラダンス、琴・三味線鑑賞、歌とアコーディオンなどのボランティアを定期的に受け入れ地域の人たちと交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出掛けた際には、なるべく近隣の方々とのコミュニケーションをとるなど、関係を維持できる様に心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の運営推進会議を開催して、他のGHや民生員、地域包括支援センターに外部の情報提供して頂き、それを参考に以後の支援・サービス向上に活かしています。	今年度の会議は、地域包括支援センター、民生委員、利用者、法人代表、他のグループホーム、職員などが参加して3回開催し、熱中症対策、地震対応などの議題を話し合い、参加者の貴重な意見をサービス向上に活かしています。	千葉県では、年4回以上の会議が望ましいとされています。町会長などにも参加を依頼し、ホームの年間計画の中に日程を組み込み、実施することが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多くの関連機関と関わりを持ち、地域の支援センターの方や民生員の方は、運営推進会議に参加して頂き、その他社会援護課の方とは、生活保護の利用者様の件で協力を得ています。	市や緑区の関係窓口とは、常に近況報告や相談を行っています。運営推進会議にも毎回地域包括支援センターの出席があり、情報交換しアドバイスを受けるなど協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は社外研修に参加し、職員の知識を高めて、なるべく身体拘束をしない様に努めています。	身体拘束廃止を謳い、年4回研修会を実施して周知徹底を図っており、職員も理解するように努めています。玄関は日中も施錠していますが、利用者の思いを汲み取り職員が対処しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は、社外研修に参加し職員の知識を高めて、職員同士の話し合いを密にして、風通しを良くしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないと思いますが、機会があれば参加したいと思います。ご家族様の状況や考えもありますが、ご家族様の意向を考慮しながら、良い支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、ご家族様のお話を聞いた上で、ご納得頂ける様に改定時には直接お話しが出来る様にしていますが、お会い出来ない時にもご納得頂ける様に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には意見や要望を伝えやすい環境作りを、ご家族様にはいつでも来苑して頂き、必ず声掛けをし気軽に話せる環境作りをしています。	家族については、面会のための来訪時などで何でも言える環境を作り、意見・要望を聴き運営に反映させるよう努めています。利用者については、日頃のケアの中で意向を汲み取って対処しています。外部評価時に実施する家族アンケートも貴重な意見として参考にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、随時職員からの意見や提案を聞く様に、全体的な件はフロア会議で、全体的で金銭的な大きな件は社長を交えた食事会で対応しています。	管理者は、日頃の対話の中やフロア会議などで、意見・要望を聴き運営に反映するように努めており、職員との良好な関係が築かれています。また、年2回法人代表が出席する食事会があり、何でも言える機会が多くあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の働き方や希望休等を考慮し、働きやすい環境作りを心掛け、役職や業務内容、資格取得による成果や改善手当等報酬も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤続年数や力量を考慮しながら、個々にあった研修を推奨しています。なるべく外部研修に参加できる様なシフト作り、費用や交通面での負担をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員全員がなるべく外部研修に参加したり、外部との交流を図り、知識やサービス向上に努める様に、その他にも運営推進会議に参加して頂いたり、当方からも参加したり、他の施設の良い所を取り入れる様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して何でも話せる関係を築ける様、常に寄り添い会話が出来る様に、利用者様を理解出来る様に、ご家族様からの情報を聞き、以前と変わらない生活が提供出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には話し易い場所にて、安心して悩みや不安を話せる真摯な対応を心掛け、色々の悩みにお応え出来る様に看護師や他の職員も同席してお話を聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の話し合いの際に、ご家族様の要望や利用者様の意向を理解した上で、当方の支援に限らず、一番良い選択が出来る様、ご提案をする様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様を家族のように接し、こちらから一方的に押し付けるのではなく、話し合いながら行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者様のご家族様がやってあげたい事を、出来るだけご家族様と連絡を密に取り合い、叶える様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様は勿論、馴染の方が来苑し易い様、面会時間に制限は無く、いつでも気軽に訪れる事が出来るので、以前の生活や馴染の方との関係が送れる様に支援をしています。	多くの利用者は、居室等で家族と過ごす時間や、外出する機会を週2回から月2回持っています。間隔があく人でも、3か月ごとに、大勢の家族に囲まれた、にぎやかな時間が訪れています。職員はどのような状況でも温かく受け入れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者様の性格を理解して、テーブルの席を変えたり、職員が間に入りスムーズに会話が出来る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居をされた利用者様やご家族様とも、何かあれば連絡を取り合える様な関係を、ご入居時から築く様にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様と会話をし、何を思い希望しているか、些細な事まで耳を傾けるようにしています。利用者様それぞれのご希望や思いは違いますが、できる限り把握し対応を心掛けています。	利用者の思いは、出来る限り叶えられる様にしています。外食や散歩の希望が出た場合は実現できるように計画して準備し、カレー食の希望があれば毎月1のつく日にカレーの日と決めて提供する等、利用者の思いを実現できるように工夫しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に出来る限り、ご家族様や協力関係などから今迄のご様子をお聞きし、その情報は職員全員で共有できる様、個人ファイルに管理し、いつでも見られる様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の出来事やレクリエーション等の能力は、ケース記録や介護日誌にて把握、バイタルチェックや排便記録にて日々の健康や心理状態を把握する様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様の変化に応じた支援が出来る様、必要に応じて処遇会議を行う様にしています。多くの職員に参加をして貰い、色々な意見を基にご家族様や利用者様の要望を踏まえ、納得のいく良い介護計画をご提供する様にしています。	介護計画は、利用者の生の声や、家族、ホーム長、管理者、職員の他、医療職など関わりのある人からの情報を把握し、計画作成者が作成しています。長期計画は年1回、短期計画は半年毎に見直すなどモニタリングし、計画書に沿って利用者を支えるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、ケース記録にて時系列に記入して、必要があれば利用者様との会話も記録する様に、職員全員で共有する様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズや対応については、その都度直ぐに対応できるようにしています。直ぐに判断出来ない事は、職員全員で話し合い、ご要望に副う支援が出来る様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの能力を把握し、本人が自身の能力を発揮でき、安全・安心できる暮らしを支援する様心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どの医療機関を利用するかは、ご家族様の意向を尊重し、健康管理は訪問診療が出来る体制をとっています。	内科医は月2回、歯科医の往診は毎週1回など、利用者に必要な健康管理体制が整っています。家族が他科への通院支援をする場合もあります。訪問診療時は看護師を伴い、職員は利用者の健康面でのアドバイスや指示を受けることが可能になっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、正看護師が勤務し、介護での気づきや心配事を常に報告、相談する等協力体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、ご家族様の心配をなるべく軽減できる様、職員が医療機関と連絡を取り、医師・ソーシャルワーカー等との信頼関係作りにも努め、相談しやすい状況に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で重度化した場合における対応に係る指針を書面にて説明、理解を頂いています。ご家族様の意向に副った支援を心掛け、様子の変化に伴い早目に相談をしています。看取りを希望されるご家族様には、医療機関をご家族様にも選択できるようにしています。	利用者の希望と状況により看取りの方針で対応しており、昨年も看取り支援を行いました。緊急時は、提携病院へ救急搬送しますが、家族が他の病院を希望した場合は、家族の思いに寄り添った対応をすることとしています。	更なる支援体制を整える為に、看取り研修や書類の再検討、緊急時の介護支援等の定期的な研修計画や介護技術の向上の為に努力が期待がかかります。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを掲示し、慌てず対応できる様、常に話し合いも含め、努力しています。マニュアルも必要に応じ、見直しをする様にしています。講習を受ける事で、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練では、色々な場面を想定して行い、その中1回は消防機関に協力を得て、消火器の取り扱い等の訓練も行っています。災害用の備蓄、近隣の協力も得られる様交流を図っています。	今年度は、災害・避難訓練などの自主訓練を2回実施しています。スプリンクラー、消火器、自動通報装置など装備は完備し、緊急対応表も掲示しています。緊急時には、近くに住む職員が駆けつける体制が取られ、備蓄は法人代表宅に7日分用意しています。	災害時の対応など、運営推進会議で話し合いをしていますが、消防署立ち会いによる災害・避難訓練を地域と合同で実施することが期待されます。また備蓄内容の一層の充実が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に尊敬の念を持って接し、言葉掛けにも注意しています。居室のドアを閉め、入浴時にはノックをする様にしています。それぞれの人格を尊重して接するようにしています。	利用者への言葉かけは、基本的に「さん」付けをしています。丁寧な言葉だけでなく、利用者を尊重した対応を心がけるようにしています。	全職員が完璧な接遇対応が出来ていても、マナー研修は自己を振り返る機会と捉え、職員教育の中に組み込むなど定期的な研修計画の見直しが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員のほうから一方的にお願いするのではなく、利用者様と必ず話し合いをして、なるべく希望に副える様支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日々の状態を見て、一日のスケジュールを決め、各々がどの様に今日一日を過ごしたいかを聞く様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを知り、その日に着たい物、身に付けたい物をご自身で選択して貰っています。定期的な訪問美容も利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランス、味付けに注意しながら、見た目にも気を付けています。食事の手伝いや片付けをしながら、色々な会話を楽しんでいます。	業者からメニューと食材が配達され、担当職員が調理・配膳をして、利用者の摂取量と体に見合ったバランスの良い食事に行っています。庭で収穫した野菜も調理して提供しています。下膳ができる、お盆が拭けるなど役割を担える利用者が数人います。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量を把握し、必要量が摂取できる様、不足分を栄養飲料等で補う様にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを確認、義歯利用者様は一日一回、入歯洗浄剤で消毒、介助が必要な方には、介助にて口腔ケアを行っています。週1回、訪問歯科診療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のそれぞれの排泄パターンを理解した上で、誘導や声掛け、見守りを行っています。	排泄が自立している利用者は約1/3ですが利用者によっては夜間頻尿の人や不定期に頻尿になる人もいます。職員は、利用者が、不快にならない様にさり気ない配慮をして対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく食べ物、水分摂取で自力排便が出来る様心掛けています。それでも困難な場合、医師や看護師に相談して、薬の利用でスムーズな排便が出来る様支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日や時間は決めていませんが、体調やその時の利用者様の気持ちに合わせ、変更しています。	ユニット毎に週4日、利用者一人週3回、30分程の入浴支援をしています。浴槽に入るのが困難でシャワー浴のみの全介助者が1/3になり、自立者でも見守り、声掛け支援を受けています。季節の柚子湯や菖蒲湯で体を癒す楽しみを提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良質な睡眠が出来る様、日中の過ごし方を工夫しています。又、日中は椅子にて過ごす事が多い為、昼寝の時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はすぐに見られる様、個人ファイルに綴じてあります。誤薬を防ぐ為、職員同士で確認、服薬時にもご本人と確認を行う様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考にして、各々の価値観を大切に、介護職員側の価値観を押し付けない様支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候・天気の良い日は、散歩を日課にしています。又、外食は月に一回は行ける様支援をしています。買い物は利用者様の希望に副って行います。ご家族様との外出も支援しています。	散歩の希望者は、近隣を30分程散策しています。花見やいちご狩り、初詣など定期的な外出の機会を提供していますが、高齢化により徐々に減少傾向にあります。外食の希望は鮨が多く、買って来てホーム内で食べることもあります。車いすで玄関先や庭園で、景色を見たり外気浴を行える環境があります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	色々な点でお金の所持は無いようにしています。利用者様の希望を考慮した上で、所持する事も可能としています。買い物時は、利用者様ご自身でお支払いが出来る様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、必要な時はいつでも利用出来る様にしています。手紙も同様、内容等手伝いが必要な時には、お手伝いをする様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つ様、掃除は毎日行い、整理整頓を心掛ける事で、安全面に配慮した生活空間を作るよう努めています。レクリエーション等で利用者様が作成した物を飾り、居心地の良い空間を作っています。	グループホーム専用に建てられたリビング兼食堂は広くゆったりしており、共用空間は綺麗に掃除され、室温や臭いにも配慮しています。厨房からは調理の音や匂いで生活感があります。壁には雛祭りの貼り絵やカレンダーが飾られ、季節を感じます。利用者はソファやテーブルで居心地良く過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	争いごとや不満などが無いよう、一人ひとりに要望を聞き、テーブルや椅子の配置を決め、居心地の良い空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地の良いと思える使い慣れた物、好みの物を置いたり、飾ったり又、安全に生活出来る様、配置換え等の手伝いをしています。	利用者は、テレビ、椅子、位牌、家族の写真など馴染みの物を持ち込み、好みの部屋にして自宅に居るように過ごしています。居室の名札の下には、利用者が職員と一緒に作った雛祭りの貼り絵が貼ってあり、ホームの優しい心づかいが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング等は、歩行に危険な物を置かない様、配置に気を配る様にしています。トイレや浴室、居室等、区別が付く様配慮しています。		